



有形文化財（工芸品）

しょういんやきからくさもんじきろう 39. 正院焼唐草文食籠 1口

■指定年月日 昭和42年5月22日(1967)

■寸法 (身) 径25.5cm 高12.2cm
(蓋) 径27.1cm 高5.6cm

■所在地 三崎町大屋

■所有者 個人

正院村（現在の正院町）で、江戸時代の終わりごろ、弥蔵が焼いた正院焼の食籠（食物を盛る器）である。全面に、朱と緑色のうわぐすりで、牡丹と唐草模様が描いてあるが、発色が鮮明で、正院焼独特の色彩が見事である。鉢の底に、正院の銘がある。

珍しいもので、正院焼研究の資料として貴重である。

正院焼については、謎が多く、窯跡もわかっていない。九谷風の色絵は、天保（1830-1844）ころに焼かれたようで、当初は九谷焼として販売していたらしく、高台内の銘に正、正院のほか、九谷と書かれた作品も多い。

現在珠洲市内で分かっている80数点の遺品の大部分は大小の皿や鉢で、このような蓋物はたいへん